

「総合的な学習の時間」におけるNIEの取り組み

神戸村野工業高等学校

校長

吉田 耕造

教諭

江島 陽子

1 実践の概要

本校は、NIE実践指定校となり2年目になる。昨年度はクラス全体で同じ課題に取り組んでいたが、今年度は、NIEを総合学習に取り入れることにより、個人で別々の課題を行う実践にも取り組んだ。

総合学習では2時間連続で授業が行われるため、一人一人熟考しながら丁寧に進められたと思う。総合学習でのNIEは、1年間を通して計画的に行い、その他の教科の中では不規則ではあるが、現代社会での授業、家庭科での授業を行った。

2 新聞の置き場と整理の方法

昨年度は教師の使用しやすい場所を選び、職員室内に置き場所を定めていた。今年度は授業以外でも生徒に新聞に親しんでもらえるよう、図書室に置き場所を決めた。

棚は学校の校務員に特別に依頼し、作製してもらった。図書室担当の教諭にお願いし、毎朝、守衛室から新聞を預かり、上の2段に入れてもらうようにした。生徒が使用できるコピー機のそばに設置し、就職活動で必要な社会事情などの記事があれば、自由にコピーできるようにした。

整理整頓については、総合学習の時間に生徒が行った。1か月分を下の広い棚に移した。最初は新聞に全く興味のなかった生徒も、毎週新聞に触れることで親しみを持ち、整理整頓も嫌がらず丁寧に行っていった。



3 実践の内容

(1) 総合学習での壁新聞作り

○指導目標

「新聞を通して研究テーマを決め、壁新聞の作成をめざす」

「壁新聞作りを通して読解力、表現力を養う」

「新聞に親しみ社会に关心を持つ」

○対象生徒と授業時間

- ・普通科 2年生 4名
- ・火曜日の 5、6 時間目

○年間計画（全 46 時間）

4月 (4時間)	・新聞に親しむ ・自分のテーマを決める	10月 (6時間)	・テーマに沿った壁新聞を作る
5月 (4時間)	・テーマに沿って記事を集め ・記事について意見をまとめる	11月 (6時間)	・文化祭で展示
6月 (8時間)	・テーマに沿って記事を集め ・記事について意見をまとめる	1月 (6時間)	・新聞記者訪問 ・新聞記者のアドバイスを受ける
9月 (6時間)	・壁新聞の構想を練る	2月 (6時間)	・アドバイスをもとに再作成 ・総合学習発表会

○研究テーマ

<生徒A>

「兵庫のいろいろ」

- ・兵庫県に関連するあらゆる記事を集めまとめた。

(感想)

私は4月～6月の間に、兵庫で「面白い」「すごい」「こんな事があったんだ」などと思わせてくれた記事を集め、各種類に分けてから壁新聞にまとめた。やり終えて思ったことは、兵庫では色んな大会やイベントや様々な取り組みをしていて、楽しい県だなあと思った。

<生徒B>

「私の選んだ正平調」

- ・毎週、気に入った正平調を切り取り感想をまとめた。

(感想)

私は好きな正平調を集めた。正平調ではスポーツのことや今話題になっていることなど、さまざまなことがたくさん書かれていた。最初は訳が分からなかつたが、どんどん読んでいくとだんだん分かってきて意外と面白いと思った。これからも正平調で文章力や字をどんどん学んでいきたいと思った。

<生徒C>

「食と健康について」

- ・食と健康に関するあらゆる記事を集めまとめた。
(感想)

私は、食と健康についてまとめた。今まで新聞を読む機会があまりなかったので大変だった。気に入った記事を見つけるのに時間がかかってしまった。集めた記事の中には、納豆のネバネバに関する豆知識などもあって、身近なことで自分の知らないことも多くあった。今回は兵庫県内の記事を中心にまとめたが、次回は他の県のことについてもまとめられるようにしたい。

<生徒D>

「戦争と平和」

- ・現代社会で起きている紛争やテロなどの記事を集めてまとめた。
(感想)

私は新聞を使って、戦争と平和について調べた。「戦争と平和」については複雑な問題が多く、根が深いと感じた。情報量が膨大なため、まとめるのに苦労した。今まで世界情勢にあまり興味がなかったが、この学習を体験して、学校だけでなく自宅でも新聞を読んだりインターネットで調べたりするようになった。

○新聞記者派遣事業

(実施日)

平成30年1月16日(火) 5、6時間目

(概要)

神戸新聞社より西田達男NIE推進室長をお迎えし、指導を受けた。一人ずつの壁新聞を丁寧に見て、それぞれに細かく指導していただいた。また新聞のまとめ方、見出しの書き方などの知識・情報も聞かせていただき、2時間では足りないほど充実した時間を過ごせた。アドバイスをもとに、その後の授業でそれぞれが自分の壁新聞を見直し、総合学習発表会に向けて新たに壁新聞を作り直した。

(生徒の感想)

- ・記者の方に自分の壁新聞を見てもらい、兵庫のどこで起きた記事なのかをわかりやすくするために地図を載せる事と、一つ一つの記事の間隔をあけて見やすくする、感想をもっと簡潔に書くという点を直そうと思った。
- ・記者の方が新聞を見やすくするためにしている工夫や、特に読者に知ってほしい記事を目につくように書くための工夫を聞くことができた。横文字で黒の白抜きは大事な見出し、8字～12字までが見出しの字数だという情報も聞けてよかったです。
- ・今回聞いた話やアドバイスを活かして次に新聞で何かをする時は、前に作ったものよりいいものを作れるように努力したい。記者の方の話を聞いて、記事についてコメントを書くとか、地域ごとに色分けをするとかの工夫をして直したい。

○新聞記者派遣事業のようす



(2) 現代社会と家庭科での取り組み

<現代社会>

○該当クラス

機械科 1年 4 クラス

○実施の概要

1～2学期の毎授業時の初め、教師がその日選んだ記事をコピーし読み上げる。あまり時間は取らず簡単に補足説明をするのみ。継続して毎時間行うことで、新聞や現代社会に興味を持たせるのが目的。回数を重ねるごとに、生徒の方から「その記事知ってる」「それ読んだ」など、自宅で新聞を読み、ニュースに関心を持つ生徒が増えてきた。

<家庭科>

○該当クラス

工業科 2年（機械・電気・情報技術・機械電子）10 クラス

○実施の概要

1学期「家族・地域の共生」の单元で、少子化や結婚、現代の家族の問題を扱った記事を使って授業をした。生涯未婚率や人口問題の数値を見て驚き、自分の生活に照らし合わせて考えることができた。

4 成果と今後の課題

総合学習では、少人数での取り組みだったので教師が手厚くフォローでき、どの生徒も楽しく興味深いと感じることができたと思う。初めのころはつまらなそうにしていたが、継続して行うことで面白さも伝わると思った。